

国際コンファレンス アジア市場の統合と金融革新



セッション2：アジア金融市場における適切な資金供給のあり方について

アジア金融市場における適切な資金供給のあり方について

藤井健司

みずほ証券執行役員 グローバルリスク管理グループ長

概要

間接金融、特に銀行による資金仲介を中心としてきた日本においては、資金余剰セクターである家計と民間非金融事業法人の資金が、一般政府債務と対外（証券）投資に向う図式が定着している。しかしながら、金融機関経由に資金フローを依存する場合、金融機関自体が、独自の所要資本規制や流動性規制等に即していること等から、資金の需要者である、中小事業者を含めた企業への資金供給機能を満たせない可能性がある。特に、詳細な財務情報や、その適時のディスクロージャーに劣る中小事業者は、金融機関を経由した資金供給を受けることに限界が生じる可能性があり、資本市場等を活用した、より直接的な資金供給ルートを確認することが期待される。

このような日本の経験からアジアの金融市場発展を展望した場合、間接金融に過度に依存しない資本市場経由の資金ルートを確認すべきと考えられる。民間の資金を資金需要者に直接向わせるためのインセンティブとなる公的サポートやファイナンススキームを整備することや、財務報告制度やディスクロージャー制度、さらには、市場のインフラストラクチャーを整備することが必要となろう。